

さくらに木

(題名は校歌より)

さいたま市立宮前小学校

学校教育目標

- ・本気で勉強しよう
- ・心をみがき、体をきたえよう
- ・人のためになろう

在籍児童数671名 学級数25

読書の秋

校長 高田 信太郎

秋分の日を過ぎ、彼岸花が咲いているのを見ると、季節の移り変わりを感じますが、例年と比べると気温はまだ高めのようにです。

今年は9月になっても猛暑が続いたため、校庭での練習の回数が少なくなっていました。子どもたちは、明日の運動会に向けて、練習に余念がありません。教室からは、運動会の歌「ゴーゴーゴー」が聞こえ、運動会が近づいていることが感じられ、期待に胸が高まります。今年は、久しぶりの声出し応援、保護者の皆様にも人数制限なくご覧いただけます。お楽しみください。

さて、秋といえば、さわやかな気候となり、「スポーツの秋」、「芸術の秋」など、秋と結びつくことがたくさんあります。「読書の秋」もその一つです。読書の秋の由来とされているのが、中国の漢詩の中にあるそうです。日本語に訳すと「秋になり、長雨があがり空も晴れ、涼しさが丘陵にも及んでいる。ようやく、夜の灯に親しみ、書物を広げられる」という内容だそうです。冷房のなかった昔の人たちも、暑い夏が終わり、涼しい秋を楽しみにしていたようです。さらに、一説には、夏目漱石が「三四郎」でこの漢詩を引用したことから知られるようになったとも言われていますが、日本で「読書の秋」が定着してきたのは1950年代以降のようです。

では、本が売れているのは秋が多いのではと予想しますが、実際は違うようです。書籍の月別支出額では、多い順に、12月、3月、4月、1月と、秋は上位に入っていない。さらに、図書館の利用についても、秋より夏の方が利用者は多いそうです。一方、宮前小学校の昨年度の月別図書館利用を調べてみると、読書月間11月が最も多く、9、10月も利用者が多いです。

よく「読書離れ」という言葉も聞きますが、全国学校図書館協議会の調査によると、小学生の読書の冊数は、20年前、10年前よりも今の方が多そうです。読書は、教養が得られるだけでなく、表現力、創造力にもつながります。読書で得た知識が、経験や学習したことと結び付き、思考を深まらせたり、興味・関心を広げたりすることにつながります。どんな本を読むとよいのか、何冊読めばよいのかなどを考えずに、興味のある本、好きな作家の本、たまたま手に取った本、勧められた本など、たくさん読書をするのが大切です。

ちなみに、ご家庭で子どもが読書をする習慣をつけるには、家に本があること、図書館に行く機会が多いこと、そして親が本を読んでいることだそうです。ご家庭でも、秋の夜長、読書の時間を増やし、読んだ本について親子の会話を楽しんでみてはいかがでしょうか。

